
特集：生活習慣病 - 危険因子 -

【巻頭言】

土井俊夫（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部病態情報医学講座病態情報診断学分野）
矢田健太郎（徳島県医師会生涯教育委員）

現在の医療で最も重要な生活習慣病に対してどのような対策が徳島県において行われているか、徳島大学および徳島県医師会会員の日頃の活動状況を報告していただくための特集を組んだ。特に徳島県は糖尿病による死亡率が全国1位と言われており、その対策は急務である。糖尿病はそれ自体ばかりでなく、生活習慣病の原疾患として重要であり、糖尿病合併症の予防・治療・啓蒙などの対策が徳島県全体で必要である。本特集では生活習慣病の危険因子について各専門家より報告して頂く。

心疾患は生活習慣病における死亡原因として最も重要である。その循環器疾患・高血圧に関する危険因子に関する総論および徳島県立中央病院における取り組みを仁木敏晴氏に報告して頂き、氏が考えておられる今後の展望もまとめて頂く。

循環器疾患および脳血管障害の危険因子として動脈硬化症および高脂血症の重要性は議論の余地はない。その動脈硬化と高脂血症に対する対策は世界中で行われており、その Heart Protection Study に関する報告を徳島大学医学部の東博之氏にして頂き、その現状と問題点に関して詳細に報告していただく。

さらに氏が立案された四国地域で行われている四国高脂血症スタディーについて報告して頂き、日本人および四国地域における問題点を浮き彫りにして頂く。

徳島県における糖尿病における問題を徳島大学病院の野間喜彦氏にして頂く。特に、徳島県における問題点とその現状に照らし合わせ現在の取り組みとその問題点について述べて頂き、さらに今後の対策に関する意見を報告して頂く。

徳島県における生活習慣病の対策を考えると、実地医家への再教育、医療従事者への教育訓練、患者のみならず県民への啓蒙、行政への働きかけなどが必要である。これらのことを有効に効率よく進めていく事が必須であり、それを成功させるには徳島大学および徳島県医師会が共同で活動することは必須である。今後、種々の合併症に苦しむ寝たきり老人の増加が想定されるがその対策は現状では全く不十分であると考えられる。医療従事者および行政との共同歩調は地域医療の今後の対策として最優先課題である。